

## パネルディスカッション ～半歩先に挑戦しよう！～

# 武雄市図書館から“地方自治”を考える！

《連絡先: ☎: 0954-23-3355: 井上》

美しい！

図書館・歴史資料館は

私たち、武雄市民の

共有財産です！



日時: 2015年11月28日(土)13時～16時(最長)

場所: 武雄市文化会館 大集会室B(集会棟2階)

主催: 武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会

パネリスト: 井上一夫(会: 世話人代表)

川原敏昭(会: コアメンバー)、前田勝之(会: コアメンバー)

私たちの「会」は、2012年7月に立ち上げ3年間にわたり「武雄市図書館問題」を学習してきました。現在、マスコミを中心に武雄市図書館モデルを「ツタヤ図書館」という呼称が定着したようです。蔦屋書店やT SUTAYAレンタルビデオ店、Tポイントカードなどの運営会社CCC（カルチュア・コンビニエンス・クラブ）が、指定管理者として参入している公立図書館のことです。武雄市図書館が「ツタヤ図書館」1号館とすれば、2号館は海老名市図書館になるでしょう。10月にリニューアルオープンした海老名市図書館は、杜撰な選書やNDC方式（書架に図書を配列する国内スタンダード）を採用しない配架方式等が利用者の非難の対象になっています。が、その方法は既に武雄市図書館で実績のあることで、武雄市でも2千万円予算の≒1万冊の書籍が、蔦屋書店の系列会社の古書店から購入したものではないかの疑いもたれ、CCCのトップは謝罪しました。さらに、当時CCCの武雄市図書館総括責任者は「武雄市図書館の時は“ドシロート”でした」と釈明しました。“ドシロート”を指定管理者として一社指名し、契約した武雄市の行政行為が問われなければなりません。が、調査究明すべき武雄市議会は9月定例議会で「100条委員会」の立ち上げを否決し、最大の責務である行政チェックを自ら放棄した状態になっています。今、「ツタヤ図書館」で噴出している問題は、3年前から「会」が市教委や市議会に問い続けてきた内容がほとんどです。今回のパネルディスカッションは「3年振り返り学習会」の中で改めて地方自治問題を明らかにし、皆さまと共に「美しい！図書館・歴史資料館」の復権を目指します。